

コロナ禍において工夫したこと、コロナ禍で特に問題になったことなど
(令和3年度第Ⅱ期実務実習)

【東北地区】

- ・実習生の同居家族がコロナ陽性者の濃厚接触者に該当したため、PCR検査結果が出るまで実習を中断した。自宅学習の指示は出して対応した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応から、病院実習の受入を当面見送るとの申し出があった。→実習先の変更を行った。
- ・新型コロナの影響で、薬局外での実習の機会や外部との接点を持てなかった。
- ・会社の方針もあり、コロナ禍で在宅実習など制限されることが多かった。
- ・コロナで社外での実習場が少なくなった。
- ・実施にあたって特別なトラブルはなくコロナの影響を大きく受けることなく実習を行ってきました。今回実習に来ていただいた学生も真摯に取り組んでいただきましたので問題なく行えています。大学との連携は、コロナ禍のため基本的に「実務実習管理指導システム」を用いて最低限の連携を取ることとは出来ていると考えております。
- ・コロナ禍のため地域活動で実地で行えない実習があることを理解して下さっております。(学校薬剤師の活動等)。今後のコロナ感染状況によりますが、可能な限り実地で行える体制が整うように準備したいと考えております。
- ・アンケートの記載に1店舗だけでなく、同じエリアの他の店舗でも実習を行ってみたいかと記載があったため、こちらもコロナ感染状況にあわせて可能な限り違う薬局、病院の処方箋も見せることが出来ればと感じました。
- ・新型コロナウイルスワクチンを実習中に2回とも接種したが、次の日体調が崩れ休みとなった。→振替は特別必要ないか？
- ・今回はコロナ渦ということもあり、大学の先生の訪問も電話での対応となり、若干不安なところがあった。システムに不慣れだったがマニュアル等丁寧な資料で実施する事が出来た。評価については基準がわかりにくく迷うところがあった。
- ・コロナ禍で対面授業等減ったことが影響しているのか、自ら問題点に気付き判断行動する能力が十分ではないと感じました。
- ・コロナ禍で在宅関連教務が十分にできなかった。(複数人での訪問を自粛)
- ・病院として学生には covid-19 ワクチンの接種を全員に希望します。
- ・COVID19の影響は分かるが、訪問自体の規制はしていないので面会はしてほしい。
- ・やはりこのような状況下において、臨床現場で11週間という長期間の実習を行うこと自体かなりリスクが高いと思う。実習期間を短縮する、リモートで行うなどの対策が必要だと思う。
- ・コロナ禍のため訪問指導ができず、実習施設との連携がメールや電話のみになってしまった。訪問することによってその施設がどういう規模かあるいはどういう職種の人たちが働いているのかも知ることができる。そのような機会がなかったのは残念である。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、実習が実施されるか心配だったが、感染対策を徹底したうえで多くの患者さんと接する機会をいただけてとても良い経験が出来た。

- ・コロナ禍でも、在宅や地域ケア会議など、出来るだけ外に出ていく機会を持ったことに対して、感謝されました。また、ちょうど新型コロナワクチンの集団接種の時期だったため、ワクチンの調整の様子も見学し、病院実習へのモチベーションアップにつながったようでした。

【 青森県：薬局 】

- ・集合研修や在宅、学校薬剤師など実施できなかったため、写真やDVDなどを利用した。
- ・感染対策を徹底していたため、特に問題はなかった。

【 岩手県：薬局 】

●コロナ禍において工夫したこと

- ・社内研修会の際、WEB会議システムを活用した。
- ・手指消毒の徹底。ユニバーサルマスクング。
- ・学生用のマスク配布と消毒液の配置。
- ・昼休みはスタッフとは別に取ってもらった（コミュニケーションは取りづらいがマスクなしで他スタッフと密集することは避けられた）。
- ・休憩室は対面にならないように仕切りを設置。
- ・実習生も毎朝の検温実施。
- ・通勤時間等の調整。
- ・実習生の利用する講義室・休憩室の亚克力板の設置や換気の徹底。

【 秋田県：薬局 】

- ・感染対策を行いながら実習を行う事が出来た。
- ・一部地域の活動が中止になってしまい、薬局外での活動が減ってしまった。
- ・感染対策や患者の了承を得た上で在宅に同行した例も複数あり。
- ・ワクチン調整業務など、普段出来ない内容も実習することができた。
- ・県薬で卸・薬局製剤に関するWeb研修会を行った。
- ・ワクチン接種による体調不良で、貴重な実習時間が無くなってしまった。
- ・職員のワクチン接種で職員が不足し、実習生の面倒を見られない期間があった。

【 山形県：薬局 】

- ・特にはありませんがワクチン接種の手技説明会に参加しました。
- ・特になし。実習期間中、1日だけ、県外（宮城県仙台市）の他薬局にて実習を行わせてもらいましたが、大学側とも事前相談のうえ、問題なく実習を終えることが出来ました。
- ・工夫したことは特別思い当たりませんが、可能な限り実地で行えるものはコロナ禍前の学生が行っていたようにと考えて実習を行っております。その中でも学校薬剤師やイベントへの参加等、他の職種の方が関わる場所に同行してもらう事は時期によって難しいと感じました。
- ・新型コロナウィルスワクチンを受けていると学生自身も施設のスタッフも安心して患者対応は出来ると思われる。
- ・自局に勤務する薬剤師や事務はコロナワクチンの接種を指定された地域の接種日に合わせ実施したが、実習生はワクチン接種を実施せず実習に来ていたので、実習が始まる前に接種済みであれ

ばよかったと思われる。

- ・コロナについては、施設同行や在宅同行など見送った部分もありました。また、学生はマスク着用息苦しさを感じていたようです。
- ・災害学習を集合研修したときの資料を共有していただき、教えるのに役立ちました。ありがとうございました。学生同士で意見をやりとりできる場が設けられないのが残念なので、情勢が落ち着いたら、ぜひ集合研修を再開していただきたいと思います。
- ・感染予防のためのアクリル板を設置しての服薬指導、渡薬。
- ・消毒用エタノールの配布、毎日2回の体温測定や、指導薬剤師による健康観察などを通し、感染予防に努めている。念のため抗原検査キットは準備しているが、使用の判断が難しく、学生が体調を崩した時の対処方法を明確に規定していただけると助かる。
- ・前年同様、学校薬剤師の見学をさせてあげることができなかったことが残念でした。そちらについては、DVDでの動画や、口頭での説明となってしまいました。地域活動についても同様で、外部の健康イベント等がなかったので、そちらの体験をしてもらうことができませんでした。その代わりに、来局した患者様にフレイルやサルコペニアについてのアンケートに協力して頂き、その結果に基づいた健康アドバイスなどを行っていただきました。

【 福島県：薬局 】

- ・学校薬剤師はなるべく生徒と会わないように時間を調整した。在宅訪問時も他職種とかぶらない時間、手指消毒を徹底した。
- ・休憩をずらしてとること、他の実習生とPCの使用時間をずらすこと。
- ・特になし、基本的なことのみ。
- ・実習に入る前から行っていましたが、換気や患者さんの出入りがある場所は、時間を決めて消毒作業を行いました。
- ・清掃をより細かく行った、手指消毒の徹底。
- ・実習生には新型コロナウイルスの疑いがある患者からは距離を取っていただきました。
- ・薬局内での患者対応、在宅訪問、多職種との連携、地域貢献活動については、口頭にて説明を行った。
- ・可能な限りコロナ前と同様の実習内容。
- ・普段あまり意識していないでやっている消毒についての理解と、感染症とその対策について現状と照らし合わせて理解につなげられたと思う。
- ・在宅については同行が出来ないため、TELでの服薬指導の様子をみてもらった。
- ・朝晩の検温、マスク着用、手洗い、手指消毒の励行、昼食会場の隔離。
- ・指導薬剤師による座学の時間を増やし、薬局スタッフとの接触をなるべく少なくした。
- ・社内実習成果発表会のweb開催。
- ・通常感染症対策のみ。
- ・特にないが、薬局外の実習は控えめにした。
- ・コロナ禍で対応が難しかったので、テキストや処方せんによる処方意図の推測だったりを多く実施しました。
- ・感染症外来の投薬は、学生さんは見学するにとどめました。
- ・昼食場所のアクリル板設置。

- ・ 食事をする際の部屋を増やした。
- ・ 食事の時間、場所。
- ・ 薬局内の定期的な消毒、待合室の換気。
- ・ 休憩時の配置などディスタンス確保。
- ・ 同居者以外との会食の制限。
- ・ 食事時における人数制限。

【 青森県：病院 】

- ・ covid-19 のワクチン接種について、今年度は当院で実習する学生に対して、希望者には当院がワクチンを確保した上で接種したが、大学によっては大学側でワクチン接種を行うなど、大学間での対応が統一されていないため、調整機構として、ある一定の指針のようなものを提示して頂けると良いと思います。
- ・ 工夫したこととしては、事前面談時に当院の感染対策の留意事項を書面で渡し、感染対策を行ってもらったことと、実習前の行動歴についてアンケートをとり行動履歴の把握を行ったことです。特に問題になった事はありませんでした。

【 岩手県：病院 】

- ・ ワクチン接種の状況確認が困難であり、接種に伴う手続き等では個人情報の取り扱いもあり、連絡等に苦労した。
- ・ 感染対策上、学生が ICT ラウンドに同行出来なかった。

【 宮城県：病院 】

●工夫したこと

- ・ 実習自体が中断することを考慮して臨床実習を早めに開始している。
- ・ 工夫した点は特段ないが、昨年度と同様、十分な配慮の下で病棟実習も十分に実施することができた。
- ・ 実習開始前（2週間）の一定期間の健康観察や行動日記の作成
- ・ 食事中の会話禁止
- ・ アイガード・マスクの着用
- ・ 実習開始前の PCR 検査実施
- ・ 土日の体温測定を義務付けた
- ・ 病院実務実習前に実習生が病院内で新型コロナワクチンを 2 回接種できるように調整した。
- ・ 病院内のカンファレンスや各種会議にオンラインで参加し、チーム医療や薬剤師の役割を経験する場を設けた。
- ・ 三密を避けるため、実務実習生控え室は 2 ヶ所に分けた。
- ・ 昼食時の感染対策など、少しずつ実習中の感染対策も確立してきているので特に問題は見られなかった。
- ・ 実習生用のスペースへの手指消毒剤設置
- ・ 食事中の会話禁止
- ・ 毎日の検温、手指消毒を励行。

- ・毎日の検温と体調の記録をしてもらった。

- ・毎日検温

- ・新型コロナウイルスの感染対策の徹底

- 問題になったこと

- ・ワクチン接種に関して大学側と病院側での見解に食い違いがあった。

- ・大きな問題ではなく実習への支障もなかったですが、学生のワクチン接種で日程がなかなか定まらず実習のスケジュール調整等するにはっきりさせてもらいたかった。

- その他

- ・工夫した点は特段ないが、昨年度と同様、十分な配慮の下で病棟実習も十分に実施することができた。

- ・実習期間中に1回目のワクチン接種を行っていますが、副反応による欠席はなかった。今後、コロナ患者の増加で実習中断などになる可能性がある。その際学生に行ってもらった課題などの準備が必要と思われる。

【 秋田県：病院 】

- ・スケジュールは特別変更していません。実習期間中にワクチン接種のため2日間ほど午後が時短になったが、例年と同じ内容で実習ができたと思います。

- ・実習生のワクチン接種においては当院で対応できました。今後定期接種などが生じるようであれば、その対応・連携などについてご検討いただけますと幸いです。

【 山形県：病院 】

- ・第Ⅲ期と合わせて報告

【 福島県：病院 】

- A 病院

- ・学生が体調不良を訴えた際、実習を再開するにあたり院内規定により PCR 検査を実施したりなど煩雑であった。

- ・コロナワクチンの個別接種でキャンセルが出た際、希望する学生に接種を行った。

- B 病院

- ・実習初日に、当センターにおける実習生の方の対応を「新型コロナウイルス感染症に関する対応について」を用い説明を行い、予防の徹底をお願いしています。

- ・今回の実習でも、病棟業務での患者さんと接するベッドサイドでの服薬指導が難しくなってきましたが、いわき市の現状を考えると、Ⅲ期以降さらに服薬指導業務が困難になってしまうのではないかと思います。

- ・大学側も、感染予防については指導していただいているとは思いますが、学生がどの程度実践しているかに不安があります。万一、学生が感染、発症した場合の速やかな対応について検討していきたいと思います。

【 A 大学 】

- ・第2期の途中で大学による新型コロナウイルスワクチンの集団接種があり、接種後の副反応による実務実習の欠席について公欠とする旨、実習開始前に周知した。その結果、混乱なく実務実習が進行した。
- ・教員による施設への訪問を控え、メール、実務実習管理指導システム、電話などで連絡をとり、実習状況の把握に努めたが大きな問題はなかった。

【 B 大学 】

- ・病院実習前にワクチン接種を希望する学生に対して、2回の接種を完了してから実習を開始することとした。結果として、全ての学生がワクチン接種を受け、病院実習に臨んだ。
- ・臨地実習を行うにあたり、新型コロナウイルス感染症対策を徹底する必要があることから、昨年度同様に主な遵守事項を以下のように定めた。
 - (i) 毎朝、体温を測定し、発熱や体調不良時（咽頭痛、咳、倦怠感、味覚・嗅覚異常、頻回の下痢など）は、必ず欠席させる。
 - (ii) 実習への復帰に際しては、医師等の助言を基に判断する。
 - (iii) 実習生には実習期間中の行動記録を作成させ、体調不良を自覚する場合には過去2週間分の記録を実習責任者に提出させる
 - (iv) マスクの装着、手指消毒および共有物品の湿式清拭を徹底し、3密を避ける。

【北陸地区】

- ・学生のワクチン接種が急に入ってきましたが、大学教員の方へは連絡がいつてなかったらしく休みの扱いについてどうすればいいのかわからず困った。
- ・実習生の会食相手が濃厚接触者となり、学生もPCR検査を受けたところ、陰性であった。実習先の病院の指示に従い、2週間の自宅待機となった。
- ・実習生の同居家族が新型コロナウイルスに感染し、本人もPCR検査を受けたところ陰性だったが、濃厚接触者と認定され、2週間の自宅待機となった。その実習生と会食をした学生がおり、全員PCR検査は陰性であったものの、大学が実務実習において定める遵守事項に反する行為とみなされることとなった。
- ・県外で実習を行なう学生について、実習開始日の2週間前までに実習先に通う住所に移動しているよう伝えていたが、2回目接種が8月中旬となる新型コロナワクチンの1回目接種を県内で受けており、3期薬局実習開始が遅れた。

A 県薬剤師会

- ・対面での講義を減らし、書面にて講義。わからないところは質疑応答で対応。
- ・学生は自宅で休憩を取る→徒歩通学だからできたことかと思う。
- ・休憩時間のやりくり。密にならないよう配慮すると休憩室に入れない職員が出る。
- ・薬局外活動が制限され実地体験の数が、少なくなってしまった、もしくは、やりづらかった。学校薬剤師、在宅、地域活動等。
- ・SGDの実施が難しかった。オンラインでの工夫が必要であると感じた。
- ・多職種連携の実習が難しかった。
- ・コロナ禍のため、以前まで集合実習として対応していたSGD等が難しくなったが、オンラインを

利用してセルフメディケーション等についてオンライン SGD で対応した。

- ・ 在宅や学校薬剤師業務では、感染対策の徹底により問題なく対応できた。
- ・ 通常であれば、上気道炎や急性胃腸炎等の簡単な処方から扱うところだが、コロナ禍であるため、学生に服薬指導させることを避けた。
- ・ 局内での休憩時間中で、休憩室が十分な広さを確保できないため、調剤室で一部スタッフが休憩をとるなどして対処した。
- ・ ケアマネージャーや訪問看護師の方に話を聞きに行ったり、仕事を拝見したりしていたが、コロナ禍ということで面会や施設へ訪問できず実現することができなかった。
- ・ 食事時間をずらすのが、一人増えることで大変になった。
- ・ 問題にはなっていないが、やはり研修会などへの参加をどうしようかと悩んだ。ワクチン調製の場の見学もしてもらったが、人が多かったかなとの思いもあり大分迷った。
- ・ 仕方のないことだが、学校薬剤師の業務に関して県外大学の実習生の同行を学校側から許可されなかった。検査を受けてから移動し、県内で2週間健康観察を行ったうえで実習に臨んだ（大学よりその旨の指示があった）学生だったので、本人も残念がっていた。結局は別の学校から許可があり、学校薬剤師の実習を行うことができた。
- ・ 集合実習がリモートになってしまったので、パワーポイントによる説明などがなく、いきなり話し合いになってしまうのが、気になった。地域連携包括ケア会議などの参加は感染対策に配慮して、限られた学生しか連れて行ってもらえなかった。自分のように、経験の浅い薬剤師が担当になると経験させてあげられないこともあった。

B 県病院薬剤師会

- ・ 会食した友人が濃厚接触者となり念のため2週間自宅待機としたため実習期間が2週間延長となった。
- ・ 患者との面談時にはフェイスシールドを付けて貰った。
- ・ 集合で可能な実習はオンラインを活用し、SGD なども ZOOM のブレイクアウトルームを活用し対応した。オンラインでは学生同士の意思の疎通が図りにくい面があったが、ある程度の成果は得られた。
- ・ 実際の服薬指導は施設の対応基準を守り、短時間で対応した。
- ・ 実習中に発熱し PCR 検査を受けた（結果として陰性）学生がおり、会食をしているケースがあった。
- ・ 2021 年度Ⅱ期は、一部の実習生のワクチンの職域接種調整がついていない状況であった。実習生からはワクチン接種の要望があり、受け入れ施設としても接種をすすめた一方で、院内では職員接種・住民接種のワクチン確保で余裕がないことや接種枠の縛りで、なかなかスムーズにはすすめられなかったが、実習期間途中に実施することができた。
- ・ コロナ対策として、可能な限り、担当教員とは Web 会議システムを用いている。しかし、前年度 Web で開催したときには、実習生の症例検討会に関しては、質疑応答が限られてしまうなど、活発な意見交換・双方向のコミュニケーションが実施しづらい状況がみられた。そこで、今年度は症例検討会に限って、十分な感染対策のうえ、担当教員に来院して頂き、実地開催し、実習生もやりがいをもって発表が出来たと意見を頂いた。
- ・ 昨年度に続き今年度も実習生の院内立ち入りが出来なくなる期間が発生したが、事前の対応として Web を介した実習の充実化を図っており、大きなトラブルもなく対応できた。

B 県薬剤師会

- 一部施設への立ち入りができず在宅では制限があったが、個人宅は感染対策を徹底して実習することができた。
- 学生が実習期間中に他施設で実習中の同級生と複数名で会食し、感染の疑いが生じた。
- 夜間救急薬局の見学を行うかどうかの判断を薬局に委ねられたのに戸惑わざるを得なかった。
- 問題点：在宅訪問や地域活動の見送り

C 県病院薬剤師会

- オンライン実習になっても困らないように課題を前もって準備した。学生の病棟内への立ち入りが禁止になっている病棟においては、準備しておいた課題を用いて、ロールプレイなどを行った。

D 大学

- 感染症については、コロナ禍においては関わってもらいにくかった。
- 遠隔実習の実施。
- 学生に実習病院先で新型コロナワクチンを接種して頂けた。
- 学生の新型コロナワクチン接種に関して、調整機構が主体となり調整することはできないかとの意見があった。

【東海地区】

- コロナの影響もあり在宅の経験ができていないのが残念だった。
- 実習生の咳が続くため服薬指導実践や協力薬局での実習を行いにくいと相談を受けた事例があった
- 実習前からアレルギーにより咳が出ることが有ると把握しており、事前に指導薬剤師に情報提供を行っていたが、実習期間中に咳が続いたため担当教員が施設訪問をした際に咳が続くため服薬指導実践や協力薬局での実習を行いにくいと相談があった。
学生面談にてかかりつけクリニックに相談し必要に応じ病院を紹介してもらい受診するよう指示し受診後咳症状はわずかに軽快する時期もあり薬局・他施設の理解を得て服薬指導実践及び協力薬局での実習を行う事ができた。
- 実習開始前に体調不良となった実習生に対し、実習スケジュールを変更して対応した事例があった
- 実習開始1週間前に発熱し、実習開始予定日になっても微熱が続いていたため、大学と指導薬剤師の協議の結果、実習開始を見合わせた。その間、実習生は抗原検査、PCR検査を実施。共に陰性という結果をうけ2週目から実習を開始した。指導薬剤師の配慮で、1週目に欠席した分は2週目～11週目の48日間、毎日30分～60分程度延長して補習し無事実習を終了することができた。
- 十分なコロナ対策を実施するとともに、学生のコロナ禍での適切な行動に対する指導を実施している。問題になったことは特になし。
- PCR検査や抗原検査を施設から強要され、その検査代などの支払いは、原則個人負担になる。高額になることも多く、大学として対応に苦慮している。
- 新型コロナウイルスワクチンを、第2期実習中に何とか実習生全員に接種を終えることができた。
- 学生の感染はなかったが、同居の家族、指導薬剤師の発熱や感染があり、対応に苦慮した。病院では対応がきちんとしているが、薬局からの相談例が多かった。大学としては、学内の保健センターと相談して対応した。

- コロナの予防接種について、薬局実務実習学生が医療関係者に含まれるか含まれないかが県により対応が異なり、対応に苦慮した。
- コロナの予防接種について、実習病院で接種していただけない病院があり、大規模接種会場や大学の職域接種を利用したが、これも調整に苦慮した。

【近畿地区】

- コロナワクチンの職域接種後、副反応にて体調不良となり入院する。実習実施の病院側と学生、大学側で協議のうえ不足日数分を実習期間終了後に補講した。
- やむを得ないが、コロナ禍の影響、緊急事態宣言により、実習開始時期、期間等に影響がでた。(開始時期を遅らせる、実質的な実習日数が減った)

COVID-19のPCR検査、ワクチン接種に関して、(やむを得ないと思うが)学生の意思で行っていない場合、実質的に実習を受けられず、施設変更で対応しないといけないケースが出ている。

- 実習受入にあたり、新型コロナウイルスワクチンの接種を受けてきて欲しいとの意見がある。また、施設によっては、新型コロナウイルスワクチン接種が完了していない学生は、病院内や病棟での実習を受けられないことがある。
- 例年薬局実習の期間中に、本学実習室において薬剤師会主催で集合研修が開催されてきましたが、令和2年度に引き続き本年度も全て中止となっているため、学校薬剤師の業務やOTC販売などの実習についての対応が、実習先によっては不足した場合があります。

なお、新型コロナ禍の状況下での実習でしたが、薬局実習においては感染予防策を取りながらほぼ通常の形で服薬指導の実習を行っていただけたたり、在宅医療の実習も行っていただけた学生が多かったように思われます。また病院実習においても、細心の注意を行いながら、病棟実習を行っていただいた施設が多かったように思われます。

- 実習開始前にPCR検査を受け、陰性であることを確認してから実習開始とするという実習施設が複数あった。実習施設がPCR検査を無料又は安価で実施してくれると実習生に負担はないが、実習施設でのPCR検査が高額であったり、他施設で検査を受けてきて欲しいと依頼があった場合は大きな負担となっている。
- 一部の病院で、緊急事態宣言中は、web実習となった。
- 新型コロナウイルスワクチンの接種が病院実習の受入や病棟実習実施の条件となってる施設が増えている。大学として、学生に接種の機会があれば積極的に接種するように周知していく必要があると考える。ただ、学生に接種を強制できないため、ワクチンを接種できないあるいは接種を希望しない学生の実習施設が限られてしまう可能性がある。
- 新型コロナウイルスワクチン接種を希望する学生に対して、第Ⅱ期実務実習開始前に1回目の接種を行い、実習期間中に2回目の接種を行った。2回目接種後の副反応を考慮し、実習先薬局や実習先病院に接種日を事前に周知して、接種日翌日の実習に配慮いただくようお願いした。接種翌日の実習を別日に振り替えるなどの対応をしていただき、トラブル無くワクチン接種を終えることができた。
- 新型コロナウイルスワクチン接種を、3大学と病院が共同した職域接種で実施した。希望学生について、第3期開始までに2回目のワクチン接種を終了した。

- 新型コロナウイルス感染症は公休と記載されているが、濃厚接触者や PCR 陽性者は公休か？という問い合わせ。

【中国・四国地区】

- 実習生の同居家族が新型コロナ感染症の濃厚接触者となった事例について、PCR 検査の結果は陰性であったが、大学/県薬剤師会/実習施設で協議して 3 日間自宅待機として体調管理を行うことにした。この期間はオンライン実習で指導薬剤師から提示された課題に取り組んだ。
- 遠隔実習はやむを得ない部分は理解できるが、学生の満足度は低かった。
- ワクチン接種の有無により実習機会が損なわれる可能性が生じる不安がある。
- 実務実習施設を直接訪問するのではなく、コロナ感染症の拡大状況に合わせて、適宜、WEB 会議システムを用いて、面談・連絡等を行った。

【九州・山口地区】

- 実習生 1 名（留学生で母国に滞在中）が、日本への入国ができなかったため、今年度の実務実習を中止とした。
- 病院実務実習を予定していた 4 名の実習生（2 施設分）が、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実習受け入れ停止となりⅢ期に再調整となった。
- 病院実務実習において 3 施設で、新型コロナウイルス感染拡大の影響により臨地実習開始遅延となったが、終了時期の延長や遠隔実習等の対応により実習は無事終了した。
- 病院実習中の学生が実習期間中にサークルの集まりに参加しており、参加者の中に新型コロナウイルス陽性者がいたため、実習を欠席して自宅で課題を行った。本人は、濃厚接触者ではなかったが、念のため PCR 検査を受けさせ陰性を確認した後に実習を再開した。
- 実習開始前に当院でコロナワクチンを接種してもらった。開始 3 日前に 2 回目を終了したため、ワクチンの副反応で実習が開始できなかった。実習途中で、発熱があり当院職員規定より 2 日間休んでももらった。
- 2 期学生は 4 名であった。病院実習開始時、薬局実習においてコロナワクチン優先接種を受けた学生が 3 名（2 回終了 2 名、1 回終了 1 名）であった。ワクチン接種前と同様に健康管理（体温・体調を実習前 2 週間記録、県外交流の自粛等）を学生に課し、実習終了まで発熱、コロナ感染等、特段の問題なく終了した。
- 実習前に PCR 検査を行い陰性であることを確認していたことや、実習途中でワクチン接種を実施したことで、安心して実習を行うことができた。
- 当院において COVID-19 クラスターが発生した時期に、学生のワクチン接種 2 回目が重なり、喉の違和感、呼吸がしづらいなどの症状を訴えたため、有症状者として PCR 検査を受けていただく事案が発生。PCR 検査結果は、陰性だったため、症状消失後、実習再開とした。問題となったのは、有症状時、本人の自宅が遠方だったため、多少調子が悪くても登院してしまったことである。職員は有症状時、電話連絡後、所属長の判断で自宅待機とする規定としており、実習生にもその旨説明はしてあったが、実際には登院、入館してしまった後、症状報告され、早退扱いで帰宅させる対応を取らざるを得なかった。今回は、検査陰性だったため大きな問題にはならなかったが、患者への

服薬指導演習を行っている最中であり、トラブルになりうる可能性があった。

- 実務実習生の新型コロナ感染陽性者発生：父親が陽性になり、実習生はその時点で濃厚接触者となり自宅待機となった。その後、実習生の陽性が判明（薬局内感染者なし、対応患者（在宅）の感染者なし。）し、実習中断となった。
- 実習生が2回目のワクチン接種時、副反応で発熱し、1日休んだ。（土曜日接種。日・月発熱し月曜休む）
- 門前医院の医師が新型コロナの濃厚接触者と認定され7/27～8/6まで休診となった。薬局は営業したが処方箋数が激減したため、大学と相談の上、当薬局グループの別店舗で実習を行うなど、実習終盤だったので残りは復習と処方解析に時間を充てた。知らずに門前医院を受診してきた患者さんを近隣医院に案内したりなど臨時の対応も学べたのではないかと思う。
- 今期、学生に対して新型コロナワクチンの接種が、薬剤師会や指導薬剤師の協力により、行政や医療機関との調整が実施され、希望する学生に実施されたと思うが、本来は大学が調整すべきであると思う。
- ワクチン接種について、具体的にどうすれば良いか早期にきちんとした説明がほしかった。（薬局によって対応がまちまちになっていた）第3期以降の病院実習時に、接種していない学生が不利にならないように配慮が必要です。
- 事前にPCRを実施してくれるので安心できました。学生さんも予防接種を打てたので助かりました。
- コロナ禍で、ワクチン接種もない状態で医療従事者の同行等のリスクと体験学習を積極的に実施することへの配慮をどのようにとらえて行うか指導者として不安のなか実務を実施しました。
- 学生には感染防止、体調管理に十分気をつけて頂いて良かったです。
- コロナ禍のため病院内への出入りができないため直接病院との連携を取ることが困難であった。
- ワクチン接種後の副作用が継続している学生について、フォローをお願いしたいとの意見があった（鹿児島県病院実習施設）。
- 7月と8月に行った本学での新型コロナウイルスワクチン職域接種に福岡県で実習中の学生の指導薬剤師より接種の希望があったが、大学事務局より実習地域からの県外移動禁止の理由により、お断りした（福岡県病院実習施設）。
- 実習中、病院でクラスターが発生した場合等の対応を職員と同じ対応でよいのか、または延期してもよいのかの判断が難しい。できれば、明確な指針があればよいかと思う。
- 7月と8月に行った本学での新型コロナウイルスワクチン職域接種に福岡県で実習中の学生より接種の希望があったが、大学事務局より実習地域からの県外移動禁止の理由により、お断りした（福岡県病院実習学生）。
- 実習開始前にワクチン接種ができるように対応した。
- 大学教員が実習施設の様態や感染予防対策について電話により確認するとともに、実習生の体調不良や不安の有無について確認しながら無事に実習を終了することができた。
- 薬局実務実習報告会をオンラインで実施した。
- 実習開始2週間前からの実習地域からの県外移動は禁止
- 実務実習期間前後の行動制限に関する誓約書の郵送
- 実習開始2週間前からの健康チェック（グーグルフォームでの本学への報告とは別に実施）と行動歴については本学で表を用意し、実習初日にその表を用いて指導薬剤師に報告

- 問題ということではないが、情報共有として挙げておく。実習生に体調不良がみられたため、現時点では新型コロナウイルス感染症の可能性を否定できないことから、職員就業制限に準じて、「症状発現日を0日として4日間実習中止」とした。4日間で症状改善を認め、実習再開とした。実習生自身も予想以上の期間の実習中止となることから当初戸惑いもみられたため、大学側にも当院での体調不良時の対応について情報提供・共有しておいた。
- ただでさえ、服薬指導はなかなか行けないが、コロナ禍で感染する可能性と感染させる可能性を考えると気軽に服薬指導へ連れていくことが困難だった。
- 接触を避けることを考慮しての学生への指導は、吸入指導はさせていいのかデモ器ならいいのか、カンファレンス等に連れていくリスクは？など未だ COVID-19 の詳細が不確かなところがありすぎて悩ましかった。
- 学生をコロナワクチンの職員接種枠に入れてもらい、実習中に2回接種完了しました
- 病棟服薬指導を直接行うことができず、薬剤師に随伴しての見学のみとなった。
- 実習開始時（5月）はワクチン接種について施設として対応不可でしたが7月からは対応可能となり実習中にワクチン接種を済ませることができました。
- 実習開始前にコロナ抗原検査（TRC）を受けてもらう必要があった。
- 病院が提供するフェイスシールドは使用感が良くなかったため、自身でフェイスシールドを持参してもらった。
- 緊急事態宣言下、実習生ならびに実習生同居家族に、職員と同様の感染対策を行う旨の同意文書を記載してもらった。
- コロナワクチンを実習期間中に職員枠で接種してもらった。
- 他施設の見学実習が実施できなかった。
- たまたま、当院のワクチン接種のスケジュールに入れることができたので2回接種してもらいました。接種後14日以降から病棟業務や他部署の見学を組み込んだので後半のスケジュールがもしかしたら過密になったかもしれません。
- 実務実習生の新型コロナワクチン接種につき、院内職員の医療従事者優先接種期間と同時期に実施できるよう事前に病院感染対策本部へ申請・対応に努めた。接種にあたっては、大学教員等を通じ、実習生本人への接種意思を確認していただいた上でメール等を利用して連絡、当院でワクチン接種できるよう対応した。副反応を考慮し、接種日を金曜日とするよう工夫したため欠席することなく実習できた。医療施設の負担は大きく必ずしも対応できる状況ではないと思うが、今回は早めに対応しタイミング良く調整できた。
- 学生さんが病棟行くときは、必ずマスクと保護めがね、手洗いはしっかりするように注意しました。

【山口県】

- コロナ禍の状況で、当院は実習開始から2週間は外部との接触はさせずに、薬剤部内での実習や見学をしてもらいました。そのためか、病棟業務に十分な時間を割くことができませんでした。2週間経過後は、他部門の見学（放射線科や検査科、リハビリ部門等）や手術の見学など他部署と薬剤部業務の連携などを経験させることができました。
- 実習生の1名が、当初、予防接種を受けない意向を示していたが、予防接種を受けない場合は、病棟業務ができないことを説明して予防接種をしてもらった。できれば、大学において予防接種を必須としていただきたい。
- 毎日検温

- 診療科長に許可を得た診療科のみ病棟実習を行った。
- 病棟実習が不可の診療科はシミュレーション形式で実習を行った。
- 実習開始前の2週間は地元（●●市）で過ごしてもらい、感染多発地域等への移動等も避けてもらった。
- 実習中は毎朝健康チェックを実施した。
- 常時マスク装着し、手指消毒も徹底して病棟活動実習を行ってもらった。
- 学生には実習期間全体を通して（休日も）、しっかり感染対策を講じてもらうことで、計画通りの実習が行えた。
- 昨年度はコロナ禍により病棟に学生を連れて行くことができなかったが、今年度は病院事務・管理者とも調整し、病棟へ連れて行くことができた。模擬患者ではないリアルな声を聴くことが出来ることで、学生の満足度も上がっているように感じた。
- 1期の薬局実習中、コロナ禍で学校薬剤師の見学ができていなかった。2期では一時コロナも落ち着いていたため同地域の薬局で実習していた学生たちは学校薬剤師の活動に同行できたようだが、連絡が不十分で当院実習中の学生を同行させることができなかった。委員会にて情報を共有できる環境を整えているので、今後は次期実習で来られる学生が不十分だった点に関しては実習前にリストアップするなど工夫するようにする。薬局と病院で実習を完結させるという考えの基、コロナという時代も鑑みて、薬局での学習範囲もフォローできる環境を整えていきたい。
- ワクチンが未接種だったこともあり、施設負担で週1回の抗原定量検査を実施しました。ワクチン接種1週間からは感染チームと相談し、検査を免除しました。しかし、デルタ株などが発生した現状以降（3期以降）はワクチン接種の有無に関わらず検査が必要かもしれないとも考えています。

【宮崎県】

- 実習開始1週間は、病院の方針により遠隔実習となったため、薬剤師としての通常業務との両立に苦慮した。
- 5月24日から5月31日までは、病院の方針により遠隔実習となったため、毎日、課題をだした。6月1日から通常実習を開始し、問題なく実施できた。
- 実習開始1週間は、リモート実習を実施した。
- 問題となるほどではないが、学生が新型コロナウイルスワクチンを接種した次の日に発熱したため、実習スケジュールを変更した。
- 問題となるほどではないが、3名の学生のうち1名が新型コロナウイルスワクチンを接種後、副反応により1日欠席した。
- コロナ禍での実習だったが、病院内の各部門からの講義や、実際の術場見学などを含めて、実習内容の質を保つことができるよう配慮して実施した。
- 介護老人保健施設体験、訪問栄養指導見学など病院独自の実習ができなかった。

【福岡県】

- 感染予防目的で、実習開始前に学生用スペースにパーテーションを設置した。
- チームのラウンドについては1回のラウンドにつき1人同行可能とし、密にならないよう工夫した。
- 新型コロナウイルスの抗原検査で学生の家族が陽性となったため、濃厚接触者の学生本人と、他の学生について一時自宅待機となり、実習が1日のみ中断した。
- 新型コロナウイルス感染症の県内での流行のため、9週目より病棟での実習が中止となった。

- 学生に直接、患者と接する機会を持たせなかった。そのため病棟実習においては、担当薬剤師が患者との面談において得た情報をもとに学生は SOAP を書き、学習を進めた。その他は、従来との相違なかった。
- 感染予防の講義を最初に設け、感染予防の徹底を行った。
- 当院にて 2 回ワクチン接種を行い、抗体が出来る時期を待ち病棟業務を行った。
- 前半、院内で活動出来ない時期はカルテを使い処方検討、病態調査、患者情報の読み込みなど入院患者さんの受け入れの際に実践できるよう、併せて症例作成の練習を行った。
- 問題ではないが、抗体が出来るまで院内・病棟活動を自粛した事で事実上病棟業務の実践期間が半分以下となった事に物足りなさを感じていた。
- 職員の出勤の 1 時間後から開始し、業務終了 30 分前に終了とした。
- COVID19 の影響により、特に週明けは実習に時間がかけられない事態が少なからず発生した。そのため、月曜日は課題を与え自宅学習とした。
- ワクチン接種をしていることを条件で、病棟での実習が認められたため、十分な対策をして病棟実習を行うことができた。※次の学生もワクチン接種をしているとの情報を得ているが、接種していない学生または接種できない学生の受け入れについては今後の課題となっている
- 当院において、実習終了 1 週間前にクラスターが発生してしまった。保健所の指示により、実習生を含め全職員 PCR 検査の対象となったため、間隔を置いて 2 回の PCR 検査を実施した。結果として、実習生及び薬剤科スタッフは全員「陰性」であったものの、病棟スタッフより「陽性」がでたため、大学側と協議した上で急遽最後の 3 日間をリモート形式の実習とした。
- 「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」の発出に伴い、同期間中は当院の規定により病院内での実習が行えず、リモート等による対応となった。なお、病院内での実習については、日本病院薬剤師会から提案があった新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた実習内容レベル 1（学生は患者との面会を伴う実習が行えないが、中央業務に関する実習および電子カルテの閲覧ができる）で行った。
- 実習時間をずらすことで更衣室内の密集を避けた。
- 毎朝来院時に入口にて検温を行った。
- 他職種との連携の点で他部署見学を予定していたが制限が生じた。
- 学生らの外食において、ワクチン接種者の体調不良に関して。
- 以前のように積極的に病棟に上がることは難しく、感染対策を行いながら、福岡市の感染状況も鑑みて病棟業務に参加した。従来では学生の興味深い HCU 病棟がコロナ病棟として機能していたため、入室出来なかった。チーム医療へは積極的に参加し、感染対策委員会でのコロナ渦ならではのカンファレンスにも参加出来た。
- 実習生が発熱等の症状が出た場合の対応が問題になった。
- 実習開始前 2 週間～実習期間終了まで体温、体調について毎朝報告するよう指導。
- 病院の COVID-19 感染対策に従い、会食や他県への移動の制限の実施。
- 例年では 10 名を 1 部屋で実習を行っていたが、最高 5 名の 2 グループに分けて部屋を別々とし密にならない工夫をしながら実習を行った。
- 外来患者のトリアージの混雑あるいは通勤の混雑を避けるため、実習時間を短縮。具体的には従来の 8 時半開始、16 時 40 分終了を 9 時開始、16 時終了と変更した。
- プログラムの修正。(時間短縮に伴う変更。対面講義や回診・チーム医療への参加を中止など)

- 学生のコロナワクチン接種が実習期間中にあったため、その日の実習を午後から休みにする必要があった。
- 実習初日に PCR 検査施行、陰性確認後、実習開始。毎日の健康観察を実施。
- 病院長の指示で 11 週間のうち 5 週間、オンライン実習を行った。オンライン教材の準備に手間取ったが、認定実務実習指導薬剤師を中心とした薬剤課スタッフの努力により web 用の教材作成（主にパワーポイント）を行い、実習生、大学教員共に満足していただけたと自負している。
- 大学側から学生へのコロナワクチンの接種を希望されたが、要望に応えられなかった。
- コロナワクチンが接種できる環境であったので、学生の了解のもとでワクチン接種を行った。実習に差し支えないように接種日を休日の前に行った。接種後は体調不良を訴える学生もいたが実習に支障はなかった。
- 通常よりも学生さんの体調管理に注意しました。問題になったことはありませんでした。
- 実習前に職員と同時にワクチン接種をした。患者さんも接種済が多かった。
- 緊急事態宣言下では対面の服薬指導は中止する方針だが、ちょうど解除されていたので比較的服薬指導もやりやすかった。
- 当院においては、ワクチン接種（2 回接種後 2 週間経過）等を条件に実習の受け入れを行っている。Ⅱ期の実習開始前に学生に対するワクチン接種の希望調査の状況等を大学に確認したところ、大学から働きかけは行っていないとのこと。今回は大学をとおして実習生にワクチン接種の希望を確認し、当院でワクチン接種をしたが、接種時期が遅れたため実習開始が 4 週間遅れた。今後は大学側から学生に対しワクチン接種の指導等を行うことでより円滑に実務実習が行えると思うので、よろしくお願ひしたい。
- 最終日に同フロアで新型コロナウイルス陽性者発生の影響で自宅待機となった。その後、PCR 検査を行い陰性の判定であった。
- 福岡県に緊急事態宣言が出されていたため、6 月 7 日よりオンラインでの実習を開始し、実習中に必要となる項目についての講義を朝から行い、課題を出し、夕方課題についての説明等を行った。緊急事態措置期間が終了した後、6 月 28 日より実際に対面での実習を行った。実習が短縮された 2 週間については実習期間の土曜日に課題を出すことで対応した。オンライン実習では学生側の回線が途中で途切れたり、入れなくなったりすることがあり、ネット環境の整備が必要であると感じた。また、オンラインでの実習中に薬剤部内の業務を紹介（実際にやっているところを LIVE 配信）する試みは Wi-Fi 電波の問題で途中で配信が途絶えるなどしたためできなかったが、学生の受けもよく、手ごたえを感じた。課題としては処方箋などが一瞬映り込んだりして患者名などが漏洩する危険性があり、十分気をつける必要があると感じた。

【佐賀県】

- 希望ですが、事前にコロナ対策で大学が行ったこと、学生が実施したこと等を提示していただければと思います。例えば、ワクチン接種、PCR 検査の実施など。
- 実習以前（実習開始日より 1 ヶ月前）、実習中の行動記録を提出要求
- 実習中毎日体調チェック、検温
- 問題となったという程には至りませんでした。実習生の同居家族が濃厚接触者となり、PCR 検査の対象となったため、陰性との結果が出るまで学生が自宅待機となった。幸い、陰性で、翌日から通常通り実習に来ていただいた。

- 病棟薬剤業務の実習受け入れについて、事前に全診療科に可否の意見を聴き、了承が得られた診療科のみで入院患者への薬剤管理指導等の見学を実施した。

【熊本県】

- ワクチン接種も行っていたし、学生も行動制限が出来ていた。患者指導においては職員同様の感染対策を講じて実施可能であった。
- リモート実習の掲示資料作成が多少業務負担となった。リモート実習では、患者情報を電子カルテから抜き取り、スライドに記載したり等の作業が、実地（対面）実習と比較すると、負担が大きく感じた。また、実地（対面）実習と比較すると、講義内容に対しての理解度の把握がかなり難しいと感じた。
- コロナワクチンを当院で学生に接種させることができ接種を行ったのですが、接種した学生が2日程休むことになってしまったこと。
- 当院で実習ができないカリキュラム内容に関して、関連病院や連携している病院で行うはずだったのが学生を預けることができなく、座学になり実務体験学習をさせてあげることができなかったこと。
- 当院では感染病床があるためコロナ患者受け入れ機関は立ち入り規制をさせてもらいました。食事に関しても当院薬剤師とは別でとってもらうことで対応させていただきました。
- 昨年度までは基本的にはリモートでの講義は行っていませんでしたが、今回よりリモートでの講義を取り入れ始めています。
- 実務実習期間中に当院の職員がコロナウイルスに感染した。感染拡大を危惧して2日間実務実習を中断した。その際、急な中断なため実習生に課題を出してないためかレポートは白紙の状態でした。

【長崎県】

- 実習前に2週間程度の自宅待機、実習前のPCR検査を行うことで、安心した実習が出来ました。
- 実習中も感染対策、自己管理の徹底を行ってもらいました。
- 学生へ、オリエンテーションの際に病院で働く一員として感染に留意した行動（具体的には、実習期間中は大人数での会食を行わないなど当院のルールに沿った行動）を行うよう指導した。
- 毎朝体温測定を行い、発熱時など体調不良時は連絡するよう指導していた。
- 病棟での実習が難しい状況になった場合は、薬剤部内でカルテ閲覧や模擬的な服薬指導の体験を行う予定にしているが、実際は通常通り病棟にて実習を行うことができた。
- 他部署や透析室、血管造影室などの見学は、感染拡大を予防するため行わなかった。
- 講義の際は、密を避けた配置にし、こまめに換気を行うようにした。
- 学生控室が密な状況になる時間帯がないよう、昼食時間やレポートの作成時間をずらすなどの工夫を行った。
- コロナ渦で、病院実習の制限があり、一部はWEBでの講義やレポート提出となったのが残念でした。
- 新型コロナ感染拡大のため、実習受け入れ予定が2週間遅れ、休日に課題を行ってもらうことで補った。
- 病棟での実習は、患者との接触時間を記録するなど、クラスター対策を行い、患者ごとに病棟師長の同意を得ながら行った。

【鹿児島県】

- 大学からの指導もあったが、薬局実習が終わり病院実習が始まるまでの間は不要不急の外出は控え、健康チェックをしてもらうように実習生と直接会いお願いした。
- 職員同様に院内のレベルに合わせた感染防止予防策を行い、服薬指導時等、患者さんと接する場合はフェイスシールドを準備してもらい、着用して行いました。
- 毎日の健康管理チェックを報告し、日誌へ体温を記載してもらった。行動制限については、職員と同様とした。院外での研修が、ほぼ行えなかった。
- 実習 14 日前には県内入りをを行い、3 密を避けてもらう。毎日の体温測定。実習中の個人持ち手指消毒用アルコールを配布。症状があれば PCR を受けてもらう体制。
- 病棟へ行く際は、実習生にマスクだけでなくフェイスシールドを着用してもらい、服薬指導を実施した。
- 病棟業務を行う際には、必ずマスクと保護メガネを着用し、手指消毒のため徹底のために学生にはアルコールを携帯してもらった。また、アルコールの使用量についても適宜確認した。
- 学生が体調不良で休んだ前日に体調不良があった状態で服薬指導を行っていた可能性があり、学生に指導することがあった。実際は、実習参加した日は午後から寒気があった程度で発熱したのは休んだ日の朝であったため本人も判断は難しかったと思われる。
- クラスタ発生時の、実習継続に関しての判断を院内 ICT と連絡をとりつつ、実習生が安全に実習を継続できるか、実習内容の構築に苦慮した。実際に、6～7 月に患者指導実習を予定していたが、クラスタ発生に伴い 2/3 程度の患者演習となったため、薬剤師や事務員を模擬患者とし患者演習を行い、補填とした。
- 10 週目に入り、県外で暮らしている家族が今週または来週に帰省することを考えているとの相談が学生からあった。当院では面会者や業者等に対して入館制限を行っており、14 日以内に県外への移動歴や滞在歴がある者と接触した者は入館不可となっている。職員に対する規定は異なるため、実習生での対応を院内で協議した結果、家族の帰省後は来院しての実習はひかえてもらうこととなった。その時点で単位を認め実習終了とするか、課題を与えて自宅での実習とするかは大学と協議する必要があったが、結果的に家族は実習期間中の帰省を見合わせたため、最後まで来院して実習を継続することができた。
- 薬局実習が門前薬局だったためコロナワクチン接種を職員枠で行った。
- ワクチン接種を希望している実習生へのワクチン接種を行った。
- コロナワクチンの副反応により、被害救済制度への報告を 1 名準備中である。
- 意見交換会などオンラインで参加する際の環境がなく、苦慮しました。

【福岡県】

- 在宅同行に行けなかった。
- 社外（他職種）と関わりが少なかった。
- 毎日の検温と SPO₂濃度の測定
- ワクチン接種の際の欠席（実習が始まる前にすませてほしい）
- ワクチン接種（1 回目）の副反応により 2 日公休となった為、2 回目の接種時は副反応を想定し日程調整しました。
- 在宅訪問の際、患者家族より学生の同行を断られるケースがあった。特に終末期の患者宅への訪問は控えざるを得なかった。代わりに座学などの時間を増やし対応した。
- 施設への訪問が制限されてしまったので本来したい訪問がなかなかうまくできなかった

- 在宅医療に関しては、訪問先でコロナウイルス感染者が出たため立ち入りができない期間もあり、見学等ができませんでした。チーム医療に関しても、会議出席者のソーシャルディスタンス確保の面で多職種連携の現場を見ることができませんでした。(出席者全員への許可が必要、かつ個人情報保護の面で見学不可との理由もあり)
- 在宅への同行、学校薬剤師の体験ができなかった。事例や写真を見たり、測定機器を用いて説明のみで対応。
- 当初、参加を予定していた地域住民講座や地域ケア会議が新型コロナウイルス蔓延防止の観点より中止となりました。どういった目的でどのような内容で行うかを座学にて補完しました。
- コロナ禍でも普段通りの実習を行った。コロナ禍だから問題になったことなど何一つなかった。
- 薬局外の実習は実施できなかったこともあったが、地区薬剤師会の仲介でコロナワクチンの希釈、充填の見学や地域ケア会議の見学が出来た。
- 在宅に学生を同伴できるかが心配だった。
- コロナ禍で自由にできなかったのが心残りであり、その分薬局内での実習時間が長くなった。採用薬剤数が少ないので、単調な内容になりがちだった。

【長崎県】

- 薬局の感染対策に沿って行い問題となる事はなかった。
- 当薬局の場合、在宅業務を指導する際には、自宅への訪問のみだったので、コロナの影響は特別感じなかった。コロナでオンライン化が進み、退院時カンファレンスへの参加や見学がしやすくなったのは良かったと思う。
- ビニールカーテンとマスクにより、患者との会話に苦勞している様子だった。実習生もだんだん大きな声ではっきり話すことを心がけるようになってくれたので話すほうは良かったが、聞き取りについては、声が小さい患者さんに何度も聞き返すことが出来ず、うまく会話のキャッチボールが行えず困っていることが何度かあった。
- 毎日の体調報告等を義務付け（大学側から指示していただくとありがたい）にすべきだと思った。
- 消毒作業をしながら他のウイルスの場合は、どんなことに気を付けるかなど話をひろげた。
- 検温、手洗い、うがい、手指消毒を徹底した。
- 投薬口にビニールシートやパーテーションを設置していたことにより、服薬指導の際、患者（特に高齢の）へ声が届きにくかった場面があった。
- マスクと手指消毒と基本的なものですが、期間中、何事もなく良かったと思います。
- 学生のワクチン接種券が3月に送られてきたが、どうして良いか分からず、県薬に相談し医療従事者枠で受けることができました。接種後2週間経ってから、在宅訪問への同行や患者さんへの投薬、学校薬剤師業務への同行等を開始しました。
- コロナ陽性懸念の患者への投薬はさせなかった。
- マスク、手袋、プラスチックガウン、フェイスシールド等の装備の姿は見学させた。
- 病院への出入りを極力減らす。換気をよくする。マスクをこまめに変える。手指消毒をこまめにする。
- エアーカーテンの利用など。
- 感染防止の為、少しでも体調不良があると実習を休ませざるをえなかったことが、スケジュールを組む上で大変だった。
- 食事の時間をずらしました。

- コロナの為、健康相談会を開催できず実習できなかった。
- いつも通りの感染対策
- 勉強会の参加が少なくなり、ほとんどWEBの対応になった。在宅に連れて行くときの感染対策はしっかりと行った。
- WEBシステムの日誌の最初の欄に体温を毎日書いてもらった。(実習生が自分から書いてくれるようになった) →体温記入欄を作ってくれたらうれしい。
- 薬局内での感染対策ルールに従って過ごしてもらいました。特にマスクを外す休憩時間は、スタッフの休憩時間をずらす、パーテーションを使用し区切るなどの対策を行っています。
- 実習開始時に実習生のワクチンが実施済みなのか未接種なのか分かっておらず、実習中に手配することになりました。ワクチンで混乱していた時期ではありましたが、大学で打つのか実習先で打つのかを決めて頂いた方がスムーズだと思いました。
- 実習始まりが、5/24からでしたが、ぎりぎりまで、大学側・実習生側から連絡がなく、本当に実習にくるのか心配しました。
- 実習が始まってからは、感染防止対策を徹底して、地域の出前講座・学校薬剤師活動に参加してもらいました。在宅施設訪問は、2Wを経過してから、同伴させました。
- グループ薬局への見学・実習をさせたかったのですが、感染拡大の為、見送りました。
- 薬局のコロナ対策に準じて実習してもらった。特に実習中だからという工夫はしていない。
- 消毒に気を遣ったこと。
- 駐車場での対応に際しては、マスクに加えフェイスシールドを着用したこと。
- I期の実習生受け入れ中に、II期受け入れの実習生のワクチン接種の連絡があり、I期の実習生がワクチン接種できるかできないかなど、わからないことがあり、お互いに不安に思った。(I期II期継続して受け入れの先生)
- 実習開始2週間前に、地元に戻ってきたのかが、わからない。
- WEB講習会が開催されていたので、興味のあるテーマは自宅で参加してもらうことができた。
- コロナ禍のため在宅へ連れていけなかった。

【鹿児島県】

- 感染状況を見ながら、各薬局で薬局外研修を行った。(学校薬剤師・地域包括支援センター研修・保健所の見学等)

【山口県】

- 学校での実習報告会に参加できないことが残念。
- 薬局外実習(学校薬剤師・在宅等)ではフェイスシールドを着用するなどして感染防止対策に十分配慮して活動した。
- 医療従事者は基本、コロナワクチン接種を行っています。ただ、すべての学生に対応しているわけでもない中で、実務体験をさせることに抵抗感があります。
- 今回の実習は、学生と同意のなかで実務実習を進めていくので、実務体験の積極的な実施に対して、十分な形で提供できたかは不安にのこります。実習生からみた場合、どこまでできるのかを示していないため、学生からの評価視点は難しいです。
- 在宅患者においては、医療従事者も在宅患者もワクチン接種済みなもので、在宅の実務実習対応は比較的安全にできました。

【工夫】

- ある意味問題点だったと思うが、後発品医薬品の流通問題で、後発品のメーカー変更や同効薬への切り替えや先発戻しの方法を例年以上に詳しく教えた。

【問題点】

- 医薬品卸見学の許可がなかなか下りなかったこと
- 学校薬剤師見学もなかなか決まらず、検査項目でプールの水質検査が無くなった。
- 学生もコロナワクチン2回接種済だったので、特に問題になることはありません。
- 個人的には在宅に関して、患者の家等で触れ合わせることができずに貴重な体験をさせてあげられなかったと思う。患者が住んでいる空間に入り込んで業務をするというのは薬局薬剤師ならではの行為だと思うし、これからの薬剤師業務にも深く関わることだと思うのでできれば複数回させてあげたかった。
- 一昨年は地域ケア会議や禁煙デーなど、多職種や地域住民との活動を見学させることもできたので良かったが、今年は全てできなかったので座学ばかりのおもしろくない実習になってしまった。
- 学生にとって良い体験や学習をしてもらうにはどうしたらいいのか腕も知識もないので何か手助けが欲しい。他の薬局は充実していたとかを学生同士が話していると思うと、申し訳なくなる。
- 大学の予防接種時期と重なったため、薬剤師会にお願いしてこちらで接種してもらえるように手配したこと。
- 多職種や他の学生さんとの交流があまり出来なかったので、今後はWEBなども利用したいと思います。
- 基本的な体調管理、感染対策以外に特にありません。
- 学生はワクチン接種を行い、在宅・介護施設での実習ではマスク&フェイスガード、薬局内でもアルコール滅菌等の衛生管理を日々行っており、コロナ感染なく無事に実習が終了できました。
- ワクチン接種のため、大学のある県外に公共の交通機関を利用して帰ったため、その後の実習開始のタイミングの対応が難しかったです。
- 神戸(兵庫県)からの実習生受け入れだったため、念のため実習開始2週間以上前から山口県入りしていただき、体調変化がないか確認後実習に入ってもらいました。
- 感染リスクが高まるため、在宅訪問、高齢者施設、多職種連携の場に参加させてよいか悩ましかった。
- 風邪症状の患者は全て駐車場対応で、実際の感染症患者への服薬指導を見学、体験が出来ませんでした。
- 昼食時間帯に休憩室が密にならないように職員を含めてローテーションを組んだ。
- あらかじめ体調が悪くなった時の対応などを確認した。
- 地域ケア会議やサービス担当者会議の一部では、zoomによる会議が行われたのでコロナ禍ではありませんでしたが、経験できたので良かったと思います。
- ワクチン未接種だったため、門前病院からの依頼で、学生に、薬局負担で、事前PCR検査を受けさせた。
- コロナ渦で私が他職種など色々気にしすぎてしまい、もっと体験できるように他職種への声かけなどをすれば良かったというのが反省点です。
- 実習が行えた多職種連携では、快く受け入れてくださるところばかりでした。患者さんとのコミュニケーションも数は少なかったかも知れませんが、無理のない限り双方の了承を取ることで問題なく行えた。

【佐賀県】

- 市町の医師会の協力を得て、1期同様、希望する全実習生のコロナワクチン接種を実習開始までに終えることができた。また一部の地区（唐津、佐賀市内）でワクチン充填業務に薬剤師が携わり、ワクチン接種業務における後姿を見せることができ、付随的に感染症対策や核酸ワクチンのイロハを学ぶ機会が得られたと思う。

【宮崎県】

- 毎日の健康管理。
- 実習期間内に実習生が駅伝大会にエントリーしていた。
- 電車の時間を利用客が少ない時間帯にしてもらいました。
- 感染対策の徹底。
- コロナ禍で急性疾患の投薬が行えないので服薬指導の回数が以前に比較して減少した。大学の先生の訪問がなくなり以前と比べて学校側とのコミュニケーションが取れなくなった。
- 大きな問題はないが、老人ホームなど施設訪問は難しさを感じる時があった。
- 地域でのコロナ感染状況に応じて在宅訪問などを調整した。訪問時は先方に承諾を得て訪問した。実習生には任意であるがワクチン接種をお願いした。
- 在宅訪問時に同席させるかどうか（相手方への同意確認必要）
- 毎朝、薬局のエタノール消毒をさせた。
- 消毒の徹底、3密の回避、感染予防を常に意識するようになった。
- 休憩室が狭いため、なるべく時間をずらしてとるようにしていました。コロナワクチンの接種状況について、大学側から一度も連絡がないまま実習が始まったので連絡が来るまで不安でした。
- マスク必着で、患者さん毎の手指消毒、店全体の定期的な換気、昼休憩の少人数などを心がけていました。

【沖縄県】

- 店舗事務員がコロナ陽性となり PCR 検査を実施→陰性。
- ワクチン接種副反応にて実習生が体調不良→欠席に。
- 在宅訪問を予定はしていたが、コロナ感染に不安があり患者様からお断りを受け、行う事が出来なかった。
- 食事休憩でのソーシャルディスタンスを実習生に気を遣わせてしまった。スペース確保が難しかった。
- 第一期と同様、長期処方が増えているため実習の初期から服薬指導を開始し、11週間の間に同じ患者さんに複数回投薬ができるようにした。
- 在宅訪問時は、換気に注意し、訪問前後の手指消毒、うがいなどを徹底した。